

福島大学ACF「強い人材」GLiD

ver.2.1

	Step1	Step2	Step3	Step4	Step5	Step6
段階	最低限大学生活を送る上で高校卒業までに身につけているレベル (本来であれば) * 高等教育を受けるに資する最低限の段階	大学入学直後に求められるレベル (本来であれば) * 能動的な学修への転換	大学生としての規範と態度を身につけ、体験・演習型学修 (ゼミ、アクティブ・ラーニング) に参加可能なレベル * 能動的な学修に最低限必要な資質	大学生としてふさわしい規範を行動を通じて体現しており、体験・演習型学修 (ゼミ、アクティブ・ラーニング) で貢献可能なレベル * 単位取得だけでなく、ゼミや研究を通じて少なくとも能動的に学修をきたしたレベルの学生像	大学卒業生として社会・経済活動に貢献する資質を有するレベル * 単位を取得するだけでなく、大学で自ら能動的に学修・社会価値創造活動を行い自己研鑽を行ってきた能動的な学修者	大学卒業生としてあるべき姿を体現しているレベル * 大学で自らの活動領域を大幅に広げ、社会価値創造活動を率先して創出出来る能動的実践者

基本的な姿勢 ~ 地域社会においての学修・活動を行うにあたり、最低限必要となる基本的な姿勢や持すべき規範						
地域社会に対する貢献と学習意欲	自らがふくしまの地域に携わる学問を志す動機を自らの言葉で説明することができる。	特に自らが興味・関心がある社会・地域事象を説明することができる。	単位・資格・就職内定といった自らの実利のためではなく、自らが興味を有する社会・地域事象に関してどのように大学で学問として学ぶことができるか、理解しており説明することができる。	社会・地域価値貢献と自らの価値創造能力の向上のために、自発的に大学生活での学びを実践している。	近い将来 (卒業後5年後程度) に地域において自らの目指す姿を明確に表明し、その実現のために自らに足りないこと、必要なことを大学で習得するための学修行動を実践している。	近い将来に自らの目指す姿と、創出したい社会・地域価値を示すことができ、その実現のための地域における活動を持続的に実践している。
共同体の一員、成人としての責任	必要となる書類や課題の提出など、大学生活において自らが行わなくてはならない業務に関して滞りなく、求められた期日・仕様で完了する。	授業の課題や宿題、提出課題など、教員から課された自主的な学習や業務を、インターネットからの完全なコピーや他者の記述の丸写しといった不正行為を働くことなく、誠実に自らの力で完遂する。	あらゆる授業や会合に、遅刻・欠席や早退をすることなく出席する。やむを得ない理由による遅刻・欠席・早退 (病氣、急引きなど) の際には必ず事前 (目安として、遅くとも半日以上前) に連絡と謝罪を行う。	教員や他の学生たちと協力し、大学生の組織や集団 (部活動、ゼミ、プロジェクト、公認サークル等) における倫理的、道徳的、法的規範と約束を遵守することができる。	学生たちのリーダーとして、組織や集団 (プロジェクト等) における倫理的、道徳的、法的規範と約束を形成することができる。	教員からの信頼を獲得し、教員の右腕として同級生や後進の指導を行うことができる。
異質な他者に対する敬意	日常において、対面で他者から聞かれた質問に対して、正誤に関わらず自分の言葉で質問に応えることができる。	形式的ではなく、対面で他者への敬意を示し、挨拶 (おはようございます・こんにちは・こんばんは) と感謝・謝罪 (ありがとう・ごめんなさい) の表明を行うことができる。	成人として不可欠な通信手段 (電話・メール・SNS等) における他者とのやり取りのマナーを理解しており、実践することができる。	成人として礼節を持った態度を有し、学内のあらゆる教職員と対面での意思疎通を行うことができる。	世代や背景を超えて立場やバックグラウンドの異なる相手 (教員など) であっても、成人として礼節を持った態度を有し対面での意思疎通を行うことができる。	世代や背景を超えて立場やバックグラウンドの異なる相手 (地域の協力者を想定) に対して、場面や相手によって対面コミュニケーションの手法を変容させ、立場を超えて対面でのコミュニケーションや議論を行うことができる。
テキストコミュニケーション	大学生や同級生に対して (友人関係ではなく) 公的な依頼を伴うメール・文書のようなテキスト文書を交付した経験がある。	教員や学外の社会人に対して (親族を除く) 公的な依頼を伴うメール・文書のようなテキスト文書を交付した経験がある。	メールなどを通じたテキストコミュニケーションにおける礼儀や返信のルールなどの一般的な作法を理解し実行することができる。	学内の教職員に対して、礼儀正しくかつ他者の立場を理解しお願いや頼み事などを行うことができる。	紹介された他大学の教職員、学外の社会人など世代や背景の異なる人々に対して、礼儀正しくかつ他者の立場を理解しお願いや頼み事などを行うことができる。	一度も会ったことのない自上の他者に対して、礼儀正しくかつ他者の立場を理解しお願いや頼み事などを行うことができる。
ドキュメンテーション	授業や演習においてレポートを作成した経験がある。	レポート作成において引用や参照に関するルールを理解しており、データの捏造・改ざん・盗用 (コピー)、といった不正を行うことなく実践することができる。	レポート執筆の構成やルールを教わったことがあり、その内容を踏まえてレポートの執筆を実践することができる。	学修文書 (学士卒業論文に相当) の執筆の構成やルールを教わったことがあり、その内容を踏まえて学修文書の執筆を実践することができる。	公に発表される記事の執筆の構成やルールを教わったことがあり、その内容を踏まえて公表される記事の執筆を実践することができる。	公に発表される学術論文の執筆の構成やルールを教わったことがあり、その内容を踏まえて公表される学術論文の執筆を実践することができる。

課題探求力						
地域社会に対する能動的関与……………地域に受け入れられる、地域に向き合うための能動的な力	地域の中で自ら興味を有する事象が存在し、その事象を五感で体感するために地域に足を運んだ経験がある。	様々な情報源から地域のことに関心を持ち、自らの思いや視点で地域についての興味・関心を表明することができる。	地域に足を運び、地域の関係者 (ステイクホルダー) の視点で地域について説明することができる。	地域での自発的な関係者 (ステイクホルダー) と、その先の間接的な関係者を含め、地域特有の文化や特徴を理解し、地域の代表者の一人として他者に対して説明することができる。	地域の関係者 (ステイクホルダー) になるため、地域でのキャリア・道路を創出するための行動を実践している。	地域の関係者 (ステイクホルダー) の一人として、地域の活性化や地域価値創造のために自らのキャリア・道路を確立することができる。
課題の探求……………様々な事象や仕組みに興味を持ち、課題に向き合い解決課題を設定する力	授業や演習活動において、実際にを行った様々な活動の中で見つけた自らの発見を呈述することができる。	授業や演習活動において、実際に行った様々な活動の中で感じた疑問点を教員に提示することができる。	地域での対外的な協働活動 (グループワーク等) の中で発見した様々な疑問点を教員に提示することができる。	地域での対外的な協働活動 (グループワーク等) の中で発見した様々な疑問点や収集した情報をもとに、その背景や発生原因に関して教員と議論を行うことができる。	教員の指導や周囲の力を借りながら学術的な研究活動のための地域課題の仮説設定とその社会的意義を説明することができる。	自ら課題と目標を設定し、複数の他者を地域の協働活動に巻き込み、課題を解決したり目標を達成した経験がある。
地域課題の分析……………科学的にかつ総合的に地域課題を理解する力	授業や演習活動の中で他者 (教員等) から与えられた課題に対して、課題を理解するための情報を収集することができる。	授業や演習活動の中で他者 (教員等) から与えられた課題に対して、課題を深く理解するために最適な情報源を選定することができる。	授業や演習活動の中で他者 (教員等) から与えられた課題に対して、収集した情報を取捨選択し情報をまとめあげることができる。	対外的な協働活動 (グループワーク等) の中で、独自の情報収集ネットワークを通じて公開情報は収集できない情報を収集することができる。	自らの情報リテラシーで独自の情報収集ネットワークを通じて収集した地域の情報と公開情報 (先行研究・論文や紙面情報等) を選別し、自らが分析している課題との類似点や相違点をまとめあげることができる。	独自の情報収集ネットワークを通じて収集した地域の情報と公開情報 (論文や紙面情報等) などを統合し、課題解決のために分析を通じて情報を効果的に活用することができる。
課題解決力						
新たな価値をもたらすアイデアの発案……………地域の課題解決や地域活性化のために革新的なアイデアや解決策を発案することができる能力	授業や演習活動の中で、自らの意見を出すことができる。	授業や演習活動の中で、過去の事例や他の地域でのアイデアを他者に共有することができる。	授業や演習活動の中で、自らの発想・着想を表明することができる。	対外的な協働活動 (グループワーク等) の中で、自らのアイデアを地域の他者 (地域のステイクホルダー等) に提案することができる。	対外的な協働活動 (グループワーク等) の中で、自らのアイデアを具現化 (イベントでの実施、商品や事業など) した経験がある。	対外的な協働活動 (グループワーク等) の中で、自らのアイデアの具現化を通じて、経済的あるいは社会的な地域価値の創出を行うことができる。
実践的な解決策の立案……………事象や仕組みへの深い理解から、実践可能な解決策を立案する力	授業や演習において、規模の大小に関わらず地域課題の理解に取り組んだ経験がある。	授業や演習において、地域課題の理解に取り組み、他者に対して説明するために、プレゼンテーション資料やレポート等、自らが調べたことを取りまとめた経験がある。	教員の指導や周囲の力を借りながら、地域課題に取り組み、他者に対して発表をした経験を有する。	地域において実践的な地域課題解決に取り組んだ経験を有する。	具体的な地域課題に対して、自ら実践可能な解決策を立案することができる。	具体的な地域課題に対して、自ら解決策を実践し具体的な成果を実現することができる。
解決行動の実践と持続……………解決策から持続的な行動を起こし、実際に解決へと導く実践的な力	授業や演習活動の中で、求められるタスクや課題に取り組むことができる。	授業や演習活動の中で、他者から与えられたタスクや課題を超えて、成果の実現のための活動に自発的に取り組むことができる。	地域において、具体的な成果を実現するための活動に取り組むことができる。	地域での活動に自らの目的を有し、自発的に取り組むことができる。	地域において、地域の人々から持続的に活動する有益な人的資源として認識されている。	地域においてこれまで実現できていなかった成果の実現に持続的に取り組み、自らの行動で地域にとっての新しい価値創造の成果を実現することができる。

福島大学ACF「強い人材」GLiD

ver.2.1

段階	Step1	Step2	Step3	Step4	Step5	Step6
	最低限大学生活を送る上で高校卒業までに身につけるべきレベル (本来であれば) *高等教育を受けるに資する最低限の段階	大学入学直後に求められるレベル (本来であれば) *能動的な学修への転換	大学生としての規範と態度を身につけ、体験・演習型学修 (ゼミ、アクティブ・ラーニング) に参加可能なレベル *能動的な学修に最低限必要な資質	大学生としてふさわしい規範を行動を通じて体現しており、体験・演習型学修 (ゼミ、アクティブ・ラーニング) で貢献可能なレベル *単位取得だけでなく、ゼミや研究を通じて少なくとも能動的に学修をきたした修了レベルの学生像	大学卒業生として社会・経済活動に貢献する資質を有するレベル *単位を取得するだけでなく、大学で自ら能動的に学修・社会価値創造活動を行い自己研鑽を行ってきた能動的な学修者	大学卒業生としてあるべき姿を表現しているレベル *大学で自らの活動領域を大幅に広げ、社会価値創造活動を率先して創出出来る能動的な実践者

情報発信力						
情報受得力 (傾聴力共感力)						
情報の受容と共感を通じた関係性の構築……自らとは背景の異なる他者を受け入れ、共感を生み出す力	他者との協働活動 (グループワーク・部活等) を行うことができる。	他者との協働活動を通じて個々人の違いを認識することができる。	他者との協働活動を進めるために、個々人の違いを活かしながら協働を実践することができる。	対外的な協働活動 (グループワーク等) を通じて地域のステイクホルダーの置かれた立場や主張などを受容し、他者の声を引き出すことができる。	対外的な協働活動 (グループワーク等) を通じて地域のステイクホルダーの声には出さない本音まで汲み取り、複数のステイクホルダーの関係を理解することができる。	対外的な協働活動 (グループワーク等) を通じて地域のステイクホルダーの置かれた立場や主張、声には出さない本音などを汲み取り、複数のステイクホルダーの関係を可視化 (ステイクホルダーマップ/図) を行うことができる。
情報解釈・分析						
情報の収集と編集……情報を集めて、集めた情報を取捨選択しまとめ上げる力	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクト (フィールドワーク・グループワーク等) において、他者 (教職員等) から与えられた課題に対して、地域における活動を通じて会得した情報をノート等に記録することができる。	授業、演習・課外活動や学内外のプロジェクト (フィールドワーク・グループワーク等) において、地域の活動を通じて会得した情報を整理しまとめた経験がある。	地域の活動を通じて会得した情報やインターネットや文献などで調べた情報 (客観的な情報) と自らが思うこと・感じること (主観的な情報) などを整理してまとめることができる。	対外的な協働活動 (チームでの活動や学外の人の活動等) の中で、様々な情報源から収集した情報を取捨選択し、分析と分析結果からの考察を導くことができる (プレゼンテーション等)。	対外的な協働活動 (チームでの活動や学外の人の活動等) の中で、独自の情報収集ネットワークを通じて収集した現場の情報と公開情報 (学術的な論文や紙面情報等) を統合し、分析結果を通じて課題解決に取り組んだ経験がある。	対外的な協働活動 (チームでの活動や学外の人の活動等) の中で、独自の情報収集ネットワークを通じて収集した現場の情報と公開情報 (学術的な論文や紙面情報等) を統合し、分析結果を通じて課題解決を実現することができる。
論理的思考性……収集した情報を精査・活用して課題解決や地域協働のための分析を行うことができる能力	授業や演習活動の中で、自らの疑問点に関して口頭で他者に質問をすることができる。	授業や演習活動の中で、正誤の解答のない問いに対して自らの意見と立場を表明することができる。	授業や演習活動におけるグループでの議論の中で、自らの意見と立場を論議を持って表明することができる。	授業や演習活動におけるグループでの議論の中で、自らの意見と参加者の意見・立場・論議の整理を行い、論議を持って集団での意思決定を実現することができる。	地域の他者に対して自らの提案を論議を持って表明し、合意を得ることができる。	様々な見解や反対意見が存在する中で、地域の他者に対して自らの提言・提案の価値が他の提案よりも優れていることを客観的論議をもって説得し、合意を得ることができる。
情報発信力						
情報の発信……情報を受容者の視点で価値あるものに変換し、発信する力	自らが経験した地域における活動 (フィールドワーク、ボランティア、サークル活動等) を他者に共有することができる。	授業や演習において、自らが経験した地域における活動について発表をすることができる。	学内の教職員等に対して、自らの地域における活動を通じて気づいた発見や地域の課題を説明することができる。	学外の自らとは年齢や背景が異なる人々に対して、自らの地域における活動を通じて気づいた発見や地域の課題を説明することができる。	自らの地域での体験を通じて気づいた発見や地域の課題を、他者に報告するための文書 (レポート・報告書等) を作成し提出した経験がある。	公に公開されるメディア (学内外の広報紙、学内外に公開する活動報告書、インターネットメディア (FacebookやTwitterなどのSNSは除く)) に対して、自らの地域における活動を通じて発見・課題を発信することができる。
つなぐ・導く力						
協働活動の実践……集団で他者とともに動き働くことを実践する力	授業や演習活動の中で、目的を有した協働活動を行うことができる。	授業や演習活動の中で、他者の意見や行動から新たな発見や学びを得ることができる。	授業や演習活動の中で、他者の異なる意見を受け入れ、自らの考えに妥協することなく協働作業に取り組むことができる。	世代や背景の異なる地域のステイクホルダーの意見を受け入れ、かつ自らの考えに妥協することなく目的達成のために協働作業に取り組むことができる。	目的達成のために地域の企業やNPO、行政など法人や公的組織の人々と共に協働活動を行うことができる。	目的達成のために地域の企業やNPO、行政など法人や公的組織の人々を活動に巻き込み、地域活動における成果を実現することができる。
他者とのコミュニケーション……他者向き合い他者の意見を受け入れ、自らの意見をも理解させる対話・会話を行う力	授業や演習活動における議論の中で、他者の意見を受け入れることができる。	授業や演習活動における議論の中で、他者の意見とその背景を理解し、代わりに説明することができる。	授業や演習活動における議論の中で、他者の立場と感情を踏まえ、共感を持って他者の意見を表明することができる。	地域の他者の意見を聞き入れ、議論を行うことができる。	地域の他者の立場や考え方を理解し、地域の他者の立場や考え方を踏まえて、自らのコミュニケーションを適切に対応させて議論を行うことができる。	様々な見解や反対意見が存在する中で、地域の他者の立場や考え方を踏まえて、自らのコミュニケーションを適切に対応させることで地域の他者との合意を導くことができる。
導く力 (マネジメント力) ……多様な価値観を有する他者を巻き込み、集合知での創造的価値創造を実現することができる能力						
リーダーシップ……多様な価値観を有する他者を巻き込み、集合知での創造的価値創造を実現することができる能力	授業や演習活動において、自らの意欲を持って集団での協働活動に取り組むことができる。	授業や演習活動において、協働活動を行う際に自らの活動の目的を設定することができる。	授業や演習活動において、複数の他者と協働活動を行う際に自らの働きかけで集団中での組織内での問題を解消することができる。	授業や演習活動において、他者との議論を通じて、考えうる複数の選択肢の中から論議を持って一つの選択肢に絞り込み、集団としての意思決定をすることができる。	対外的な協働活動 (グループワーク等) の中で、事業実施の中で起こる問題 (コンフリクト) の解消や関係者 (ステイクホルダー) との対話を実践し、最終的な成果を実現することができる。	自らがリーダーシップをとった対外的な協働活動 (グループワーク等) の成果が関係者 (ステイクホルダー) から評価され、新たな事業リーダーとして地域価値創造の実現者として様々な事業を任せられるよう認識されている。
集団における課題・目標の設定……集団が働きやすいように正しい目標を設定し、集合知の活用を導く力	授業や演習活動におけるグループワーク等を経験したことがある。	授業や演習活動におけるグループワーク等において、教職員など、他者から設定された課題や成果目標を理解している。	授業や演習活動におけるグループワーク等において、他者から設定された課題や成果目標に対して、課題を解決したり目標を達成した経験がある。	授業や演習活動におけるグループワークに対する他者 (教員やグループのメンバー等) の期待の水準を自発的に確認・合意し、取り組む課題や成果目標を設定するために必要な要素をまとめることができる。	授業や演習活動におけるグループワークに対する他者 (教員およびグループのメンバー等) の期待の水準を自発的に確認し、取り組む課題や成果目標を自発的に設定することができる。	授業や演習活動におけるグループワークに対する自らの課題と目標を設定し、複数の他者を地域の協働活動に巻き込み、課題を解決したり目標を達成した経験がある。
事業計画の立案と完遂……発想やアイデア、商品や事業を持続的かつ発展的な計画として立案する能力	授業や演習活動の中で設定された目標に基づき、計画や事業を持続的かつ発展的な計画として立案することができる。	授業や演習活動の中で設定された目標に基づき、計画書を他者の力を借りて作成することができる。	授業や演習活動の中で設定された目標に基づき、計画書を自らの力で完成させることができる。	対外的な協働活動 (グループワーク等) のための事業計画設計を行う事ができる。	対外的な協働活動 (グループワーク等) のための成果の設定を伴う事業計画設計を行う事ができる。	対外的な協働活動 (グループワーク等) の中で自ら立案した事業計画に基づき成果を実現することができる。
事業評価と改善……具体的に実行する事業の課題と発展機会を評価し、PDCAサイクルとして持続的・発展的に改善することができる能力	授業や演習活動の中で、他者のフィードバックを受け入れることができる。	授業や演習活動の中で、他者のフィードバックを活用し、自らの活動の改善を行うことができる。	授業や演習活動の中で、自らの活動に関してうまくいっている部分、課題として考えられる部分を客観的に評価することができる。	授業や演習活動の中で、自ら実施した活動に関する課題を客観的に評価し、その課題改善を自らの力で実践することができる。	対外的な協働活動 (グループワーク等) の中で、活動のうまくいっている部分、課題として考えられる部分を客観的に評価することができる。	対外的な協働活動 (グループワーク等) の中で、うまくいっている部分、課題として考えられる部分を客観的に評価し、改善策を立案し協働活動からの成果を実現することができる。